

# 「道徳の時間」の指導について (2)

庄子 豊

## はじめに

道徳の時間の目標は、児童生徒が主体的に道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成することにある。この主体的に道徳的価値を自覚するという点は、とても大切なことである。なぜなら、道徳の時間は、教師の一方的な価値の押し付けであってはならないからである。そのためにも、教師主導の一問一答で進められる授業展開は避けたいと考える。

道徳の時間は、学級内の児童生徒の様々な価値観に出会うことが大切となる。道徳的価値は、現実の生き方の中で様々な姿をもって表されているからである。そこで、児童生徒が教師に話すのではなく、児童生徒相互の語り合う姿が求められてくる。

本稿は、児童生徒相互の「語り合う姿」を求めて行われた研究授業の授業記録を基に、道徳の時間の指導についてまとめたものである。

さらに、児童生徒相互の「語り合う姿」を高める上で重要な教師による「切り返しの発問」に視点をあててまとめたものでもある。

## 1 道徳学習指導案

ここでは、「友だちの考えと比べて語り合う(小学校中学年)」をテーマとして筆者が行った研究授業の学習指導案を取り上げた。

〔主題名〕 だれとでもなかよく

〔資料名〕 おまじない (学習研究社)

〔資料について〕

一人ぼっちだった「はる子」が、気分の悪くなった「ゆか」をやさしく世話をしたことで、「はる子」を見る周りの目が変わり、友だちが多くなっていったという話である。

〔ねらい〕

お互いに相手の気持ちを考えて、誰とでも仲良く助け合おうとする態度を養う。

II -(3)

〔展開〕

※指導上の留意点は枠外に

過 程	学 習 活 動 と 内 容
導 入 (自分の問題として意識する)	1 誰とでも仲の良い友だちになれないことについて話し合う。 ・やっぱり、気の合う友だちと遊んでしまう。 ・遊んで楽しい人と友だちになる。
学習課題	誰とでも仲よく出来ない今の自分に、必要な考えは何だろう。
展 開 (自分と主人公の考えの異同を探る)	2 資料「おまじない」を読んで、誰とでも友だちになるために、大切なことについて話し合う。 ○はる子さんに対してみんながとった行動を、ゆかさんはどう思っていたでしょう。 ・ゆるせない。

	<p>・はる子さんにも直すところがある。</p> <p>○はる子さんを見る目が変わったのは、どうしてでしょう。</p> <p>・はる子さんにも良いところがある。</p> <p>・友だちを決めつけてみてはいけない。</p>
価値把握 (価値をはっきりつかむ)	<p>◎みんなに足りなかった気持ちは何でしょう。</p> <p>・誰とでも仲良くすることは、とても大切なことだ。</p> <p>・友だちの良いところを見る。</p> <p>・どの子もみんな良いところがある。</p>
振り返り (自分を深く見つめる)	<p>3 今の自分は誰とでも仲良くしてきたかどうか話し合う。</p> <p>○相手の気持ちを考えて、仲良く助け合えたことや、仲良くできなかったことを思い出して、そのわけを考えてみましょう。</p>
終末 (実践意欲を高める)	<p>4 友だちの作文を聞く。</p> <p>・前は、あまり気が合わなくて仲良しではなかったが、今では、とても仲の良い友だちになったことを話す。</p>

※ 指導上の留意点について

- ・導入～・人によって、態度の違う自分に気づかせる。
- ・展開～・はるさんに直すところがあるとしても、意地悪は良くないことだと気づかせる。
- ・はるさんの気持ちも考えさせる。
- ・振り返り～・振り返りは、登場人物それぞれと自分自身を重ねて考えさせる。

2 (授業記録) からの考察

T : 教師 C : 児童

(1) [自分と主人公の考えの異同を探る段階]

はる子さんについてみんながとっている行動に対して聞いた後	
T	どうして、いじわるがなくなるのだろうか。
C 1	忘れ物ばかりしているし、みんなに迷惑ばかりかけている。
C 2	3年生になって指しゃぶりをしているのは、きたないよ。
C 3	のろのろしているし・・・。
C 4	いじけている様子で、そんなのいやだよ。
T	今、C 4さんがいじけているからっていったけど、どうしていじけているのかな。みんなも考えてみよう。
(切り返し)	
C 5	はるさんが直そうとしないで、自分でいじけている。
C 6	そうだよ。がんばらないでいじけているんだよ。
C 7	私は別な考えもある。まわりの人に相手にされないといじけてしまう。
C 8	私だって、相手にされないとだんだんいじけてしまう。
C 9	ぼくだって、一度いじけちゃうと、なかなか直せない。
C 10	はるさんが悪いと思っていたけれど
(C 5)	みんなの考えを聞いて、まわりの人にも直すところがあると思う。
C 11	誰にもみんな良いところがあると思う。
C 12	良いところっていっても、なかなかわからない。
C 13	良いところがわからなくて、友だちにしないというのはおかしい。誰とでも友だちになった方が良いと思う。
C 14	同じです。私は、すごく仲良しの人がいるけど、友だちにしない人はいない。

「考察」

「いじわるがなくならないのは、どうして」の発問に対して、児童の反応は、いじわるをされる原因は、はる子にあると捉えている。

これは、自分たちの立場から見た一方的な考えで、いじめられる側の立場について考えていない。そこで、C4「いじけている」という発言を取り上げ、それを切り返して「どうしているのか、みんなで考えてみよう。」と全体に広げた。これは、C1～C4の児童の持っている一方的な考えを、角度を変えて逆の立場から考えさせたいと思ったからである。C5、C6は、まだ、原因はいじめられる側にあるとしているが、C7で別の考え、いじめられている側の立場に立った発言が出てきた。その後C8・C9と、同じような考えが出てきて、今まで、はる子が悪いと思っていたC10(C5)が「みんなの考えを聞いて、まわりの人も直すところがある。」という発言をするようになった。

さらに、C11の「誰にも良いところがある。」C13・C14のように「良いところとかということではなく、友だちにしていこう」という考えが出てきた。

このように、語り合いは、ねらいに関わる児童の発言をとらえて切り返していくことが大切である。そして、友だちの考えと自分を比べたり、自分の体験をからませたりしながら、自分の考えを友だちに語っていくのである。

(2) [自分を振り返る段階]

T 今の皆さんは、相手の気持ちを考えて誰とでも仲良くしているだろうか。

C15 遊んでいて、友だちが「仲間に入れて」と言ってきたけれど、入れなかったことがあった。悪いことをしたと思う。

C16 私は逆で、仲間に入れられない人に「入らない？」といったけど、その子は入らなかったの、そのままにしていた。それで、良かったのかなと思う

T C16さんの言ったことで、みんなの考えはどうだろう？ (切り返し)

C17 私は前に、「入らない？」って声をかけて、「入りたくないのに」って、文句を言われたことがあった。

C18 文句を言う人は、間違っていると思う。私は、友だちが一人にいる時はなるべく声をかけている。

C19 入らなかった人は、本当は入りたかったかもしれないと思う。

「考察」

相手の気持ちを考える大切さを深くとらえさせようと、C16の「それで良かったのかなと思う」という発言を共通の場に広げた。

(切り返し)

相手の気持ちを深く考えさせないと、C17のような状況も考えられるが、共通の場に広げたことでC18・C19のような考えにふれさせていくことができた。

そこで、友だちの考えと自分の考えを比べ、本当に相手の気持ちを考えるということ、自分中心の考えではないことに気づく。そして、前項の考察と重なるが、自分の体験をあらためて認識し、それで良かったのか、今の自分を振り返り、自分を見つめ直していくのである。

※ 切り返し とは

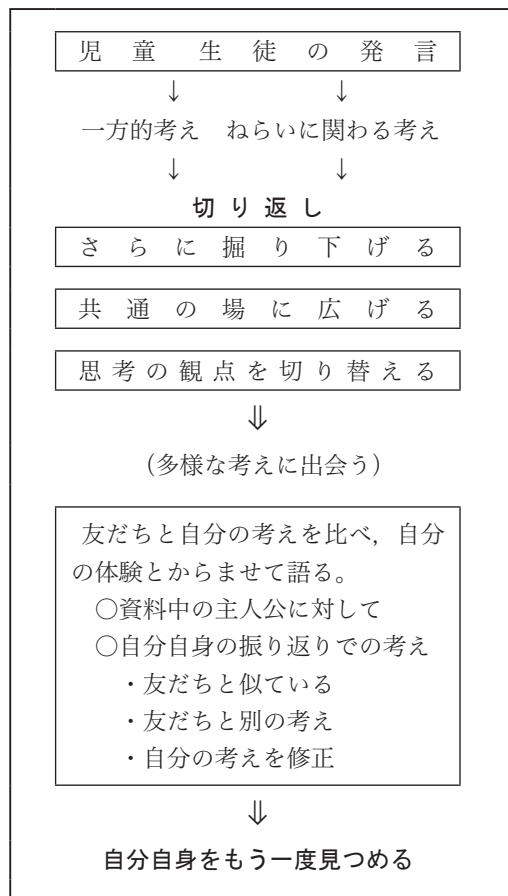
主発問に対する応答を、さらに掘り下げる発問を「切り返しの発問」と呼ぶ。「切り返し」は、発言を「共通の場」に広げたり、「思考の観点を切り替え」たりする場合にも使われる。

主発問は、事前に十分な吟味をして予定できるが、「切り返しの発問」は、児童生徒の反応に即して瞬時に行うこととなる。

切り返す際、発言をした児童生徒を委縮させたり、否定したりすることのないよう配慮が必要である。

### 3 児童生徒の発言を繰り返す

繰り返しをすることによって、児童生徒が深く自分を振り返ることに繋がる流れを、次のようにまとめた。



師は、主発問に対する児童生徒の応答をさらに掘り下げたり、共通の場に広げたり、思考の観点を切り替えたりする「**繰り返しの発問**」を行うことが重要となる。それが、一人ひとりが自分自身を深く見つめながら、振り返っていくことに繋がる展開となっていくからである。

道徳の時間は、児童生徒が第三者になって物言いをするのではなく、自分自身問題意識をもって、振り返り、自分を見つめ、自分を点検する時間なのである。

---

**参考文献:** 学習指導要領解説 道徳編

### まとめ

教師主導の一問一答では、教師に話そうとして友だちの多様な考えに出会いにくくなったり、教師の意に沿うような展開になったりしまいがちである。道徳の時間では、児童生徒相互の「語り合い」の中で、友だちのものの見方、考え方から、様々な価値観に出会っていくことが大切となる。

さらに、指導上で大切なことは、児童生徒の語り合いに任せるだけであってはならない。教